

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

## 研修会記録

第 6 号

令和5年 12月 6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

11月 1日 (水)

提案 佐藤 安世 先生 (北綱島小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 高森 太郎 先生 (大鳥小)

記録 木村 拓郎 先生 (上山小)

### 1. 提案内容 単元名

単元名「鶴見川とともに生きるわたしたちに必要なこと

～自分のくらすまちで想定される水害を知って、備えよう～

### 2. 提案者より

前回の検討会を踏まえ、構成した学習計画であるが、以下の点についてみなさんの助言をいただきたい。

- ① 前時の学習調整でKさんの言葉と子どもたちに出合わせる手立て
- ② 本時の学習問題の文言等
- ③ 本時の中心資料の取り扱い方

### 3. 検討内容

令和元年台風19号のとき、水害が発生したにもかかわらずラグビーワールドカップの試合が横浜国際競技場で開催されたことに評価が集まる一方、鶴見川ネットワーキングKさんの言葉「多目的遊水地があれば下流は安全と考えるのはまちがい」という。この言葉に写真を添えて提示する件について、いくつかの意見が参考になった。(次の通り)

- Kさんは行政の方でない。学ぶべきは県・市等の行政の取組なので、どうか。
- 主語は「Kさん」でいいか？  
(代替案：「多目的遊水地があれば、下流は安全だといえるだろうか？」)
- 「対策は十分か？」と子どもが考え、疑念・葛藤が生じた先に、こういう立場の考え方もあるとしてKさんの言葉を引用する。

本時の中心資料(それまでにすでに取り上げ、提示はしているものの、再度取り上げる)について、

- 学校や遊水地の場所を記入して、読み取りやすくする。
- 写真なども使いながら、情報量を精査する。

といった意見も出た。

また、鶴見川の姿についても、水を流すトンネルがある河口や、上流の様子、支流を含めた流域の様子などについても情報が寄せられた。

抽出児童について、次のような3名の児童を考えている。

- 学び合う楽しさを知ってほしい児童
- 書いてまとめることを課題としている児童
- 英国より転入間もなく、Social Studyの経験が浅い児童

<講師の先生より> 西富岡小学校 黒田 由希子 校長先生

- 子どもの思考の流れを授業者が事前に読んでおくことが大切。
- (そのためにも) 資料提示のタイミングなどを熟慮したい。

たとえば、

- 思考の流れの状況に合わせて提示
- 資料の価値を考えたタイミングでの提示
- 読み取る力に応じた提示のしかた

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)